

2026 (令和 8) 年度入学試験問題

世界史

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題の本文は全部で25ページです。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答は、設問に従って、該当する解答欄にマークしてください。なお、すべてマーク解答問題です。解答にあたっては、必ず黒の鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
6. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
 - (1) 氏名・受験番号を所定欄に記入し、該当するマーク欄を正確にマークすること。
(機械処理上、非常に重要なので誤記のないよう注意してください。)
 - (2) 解答科目欄は、解答する科目を一つ選び科目の下のマーク欄を正確にマークすること。
マークされていない場合または複数の科目にマークされている場合は、無効となります。
 - (3) 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで完全に消してから改めて書き直すこと。
 - (4) 指定した解答欄以外および枠外の空白部分には何も書かないこと。
 - (5) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないこと。
 - (6) 解答用紙の解答欄をマークするときは、次の(例)のようにマーク解答欄の番号をぬりつぶすこと。

(例) ③と解答する場合

マ ー ク 解 答 欄									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 問題冊子の余白等は適宜利用してかまいません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

- I 以下の西ドイツとフランスの外交関係に関する文章を読んで、〔設問1〕～〔設問20〕に答えなさい。解答は解答欄 ～ にマークしなさい。

1930年代のヨーロッパは、混とんとしていた。1929年10月にアメリカ合衆国⁽¹⁾（以下、アメリカ）に端を発する世界恐慌を経て各国経済はブロック化し、政治的には、イタリアに続きドイツやスペイン⁽²⁾でもファシズムが台頭した。1939年9月には、ドイツ軍がポーランドに侵攻し、これにイギリスとフランスが宣戦布告したことで第二次世界大戦が勃発し、戦火はヨーロッパ全土に及んだ⁽³⁾。そしてこの大戦は、物理的な破壊だけでなく、戦後のヨーロッパに深刻な分断をもたらした。ヨーロッパは、ソ連主導の社会主義陣営⁽⁴⁾と、アメリカ主導の資本主義陣営⁽⁵⁾という、二極化した世界秩序の狭間で東西に引き裂かれることとなったのである。

こうした状況の中、西側のヨーロッパ諸国は、国家再建と域内の安定的発展を目的として、統合の道を模索し始めた。その中心にあったのが、19世紀以降度々⁽⁶⁾戦火を交えた隣国⁽⁷⁾、ドイツとフランスである。ヨーロッパ統合は、この両国の歴史的和解と平和への希求を軸として進められていくことになった。歴史的和解の実現に大きく貢献したのが、ドイツ連邦共和国（以下、西ドイツ）初代首相 と、フランス第五共和政初代大統領ド=ゴールであった。

第二次世界大戦後、敗戦国となったドイツはアメリカ・イギリス・フランス・ソ連の4か国によって分割占領された。このうち、ソ連の占領地区では1949年に、ドイツ民主共和国（東ドイツ）が建国され、その後、ソ連の統治モデルを模倣した社会主義統一党による独裁体制が継続した。西側3か国の占領地区では、同年、西ドイツが成立した。そして、その数か月後に初代首相として就任したのが であった。

一方、ド=ゴールが大統領に就任したのは、 の首相就任からおおよそ10年後の1958年であった。⁽¹⁰⁾ドイツ占領下のフランスにおいてレジスタンスの象徴的存在であったド=ゴールは、⁽¹¹⁾1945年に臨時政府の首相となり、国家再建を試みた。⁽¹²⁾しかしながら、旧来の政党勢力との軋轢や⁽¹³⁾議会制民主主義への不信感から、1946年1月に突如政界を去った。その後のフランスでは、⁽¹⁴⁾植民地独立をめぐる戦争が泥沼化するなど、政治的な混乱が続いた。こうした危機的状況を打開するため、

世論に後押しされて政界に復帰したのがド=ゴールであった。

戦後独仏を代表するこの2人の政治家は、いずれもヨーロッパ統合を推進したが、冷戦構造下におけるアメリカや共産主義との関係については異なる意見を持っていた。8は、首相に就任するとすぐに「西方統合」政策を打ち出した。アメリカと西ヨーロッパ諸国との連携を強化することで、自国政治における共産主義の影響を排除しながら、国際社会への復帰を進めたのであった。彼は、共産主義を「文明の否定」ともみなし、冷戦構造の中で自由主義的秩序を重視し、共産主義から西ドイツを守る「防波堤」としての役割を自認していた。

一方、ド=ゴールの外交戦略はフランスの「グランデュール（偉大さ）」の回復、すなわち国家主権と独立を中核に据えたものであった。ド=ゴールは、共産主義に対して警戒的でありつつも、8とは異なり、アメリカを中心とした西側同盟への一体化にも否定的であった。そのため、ド=ゴール政権期のフランスは、アメリカ主導の北大西洋条約機構（NATO）とは一定の距離を置きつつ、イギリスをアメリカの「トロイの木馬」とみなす立場から欧州経済共同体（以下、EEC）へのイギリスの加盟を2度にわたり拒否したのである。アメリカにも依存せず、国家主権を保持しながら大陸ヨーロッパ諸国との連帯を模索したいというのが、ド=ゴールの考えであった。

戦後ヨーロッパ統合の基盤は、ド=ゴールが政界復帰を果たす以前にすでに形成されていた。1952年には欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）、1958年にはEECが創設され、西ドイツとフランスに加え、イタリアおよびベルギー・オランダ・ルクセンブルクが参加して共同市場の創設が進められていた。しかしながら、この統合の動きが不可逆的なものとなるためには、独仏が和解し、敵対した過去を乗り越える必要があった。

1960年代に入ると、ド=ゴールは8を、首都パリから遠く離れたフランス北東部の小さな村コロンベ-レドゥ-ゼグリーズにある私邸「ラ-ボワスリ」に招待した。そして、2人は、かつての敵国の指導者としてではなく、ヨーロッパの未来を見据える協力者として静かに対話をしたのである。この出来事を契機に、両者の間には深い信頼関係が築かれ、独仏の歴史的和解の象徴となる1963年のフランス-ドイツ友好条約として結実したのであった。

もっとも、両者の統合に対する理念には根本的な違いがあった。[8] は、EECを超国家的機構ととらえ一定の国家の主権移譲を容認していたのに対し、ド=ゴールは統合が進んでも各国の主権は保持されることを望み、EECが超国家的性格を持つことには否定的な態度を貫いた。それでも、両首脳は過去の対立を乗り越えて、独仏を枢軸に据えたヨーロッパ統合を進めていくことを決意したのであった。

フランス-ドイツ友好条約から60年以上が経過し、⁽²⁰⁾欧州連合 (EU) の加盟国は27か国に拡大した。国際秩序もヨーロッパ域内の力学も大きく変化した現在において、かつての対立を乗り越え、深い信頼関係を軸に統合を進めた [8] とド=ゴールの決断に立ち返る意義は、いっそう大きくなっている。

〔設問1〕 下線部(1)に関連して、19世紀初期のアメリカについての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 [1] にマークしなさい。

- ①ジェファソン大統領期に、フランスからルイジアナを購入した。
- ②ナポレオン戦争まで中立を守り、ヨーロッパ諸国との貿易で利益を得た。
- ③ヨーロッパ諸国と南北アメリカ大陸の相互不干渉を原則とするモンロー宣言が出された。
- ④アメリカ-スペイン戦争で貿易が一時中断し、国内の綿工業が発展した。

〔設問2〕 下線部(2)に関連して、スペインは、フェリペ2世の絶対王政期に、ヨーロッパの覇権国家の一つとなった。フェリペ2世の治世についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **2** にマークしなさい。

- ①ピサロが南米のインカ帝国を征服した。
- ②カトー-カンブレジ条約を結んでイタリア戦争を終結させた。
- ③無敵艦隊（アルマダ）がイギリスに敗れた。
- ④強硬なカトリック化政策が、ネーデルラントのプロテスタントの反乱を招いた。

〔設問3〕 下線部(3)に関連して、17世紀にヨーロッパで展開された戦争として三十年戦争がある。この三十年戦争についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **3** にマークしなさい。

- ①この戦争では、カトリックのフランス王はハプスブルク家を支援した。
- ②この戦争の発端は、ボヘミア（ベーメン）のプロテスタント貴族の反乱であった。
- ③この戦争では、デンマーク王やスウェーデン王がプロテスタントへの支援を名目としてドイツに侵入した。
- ④この戦争は、1648年のウェストファリア条約の締結によって終結した。

〔設問4〕 下線部(4)に関連して、19世紀になると、ヨーロッパでは社会主義思想が発展した。科学技術者が支配する産業社会を構想したフランス出身の社会主義思想家の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **4** にマークしなさい。

- ①オーウェン ②サン=シモン ③ブルードン ④マルクス
- ⑤エンゲルス

〔設問5〕 下線部(5)に関連して、18世紀に始まったイギリスの産業革命は、資本主義の発展を大きく促進した歴史的出来事であった。イギリスの産業革命についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** **5** にマークしなさい。

- ①カートライトが力織機を発明した。
- ②スティーヴンソンが蒸気機関車を実用化した。
- ③ダービーが飛び杼を発明した。
- ④ワットが蒸気機関を改良した。

〔設問6〕 下線部(6)に関連して、1870年には、プロイセン主導のドイツ諸邦とフランスの間で独仏戦争（普仏戦争）が勃発した。この戦争勃発時、プロイセンの首相はビスマルクであった。ビスマルクは、1888年に即位した新皇帝と外交政策や労働者政策などをめぐって対立し、1890年に辞任に追い込まれた。ビスマルクと対立した新皇帝の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **6** にマークしなさい。

- ①ニコライ2世 ②ヨーゼフ2世 ③フリードリヒ2世
- ④レオポルド2世 ⑤ヴィルヘルム2世

〔設問7〕 下線部(7)に関連して、この国では17世紀に宮廷生活を通じて様々な文化や芸術が花開いた。この時代に、代表作の『タルチュフ』など、人間観察に基づいて人間の滑稽さを風刺した喜劇を数多く生み出した人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **7** にマークしなさい。

- ①ラシーヌ ②コルネイユ ③ゲーテ ④シェークスピア
- ⑤モリエール

〔設問8〕 空欄 **8** に入る人物の名はどれか。もっとも適するものを次の

①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **8** にマークしなさい。

- ①ブラント ②シュトレゼマン ③ヒンデنبルク
④アデナウアー ⑤コール

〔設問9〕 下線部(9)に関連して、この国では1979年にサッチャー政権が誕生した。サッチャー政権期のイギリスについての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **9** にマークしなさい。

- ①富裕層に不利な税制改革が進んだ。
②北海油田の開発が進んだ。
③国有企業の民営化が進んだ。
④アルゼンチンとの間でフォークランド戦争が起こった。

〔設問10〕 下線部(10)に関連して、ドイツによるパリ占領後、フランスではドイツに協力的なヴィシー政権が誕生した。この政権の首班であった人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **10** にマークしなさい。

- ①ブリアン ②ブルム ③クレマンソー ④ペタン ⑤ガラディエ

〔設問11〕 下線部(11)に関連して、第二次世界大戦中にはドイツの支配に対するレジスタンス運動がヨーロッパ諸国で展開された。このうち、ティトーに率いられた共産主義者を中心とするパルチザン部隊が解放区を広げた国はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **11** にマークしなさい。

- ①ポーランド ②ハンガリー ③ユーゴスラヴィア ④ルーマニア
⑤ブルガリア

[設問12] 下線部(12)に関連して、この年にポツダム会談が開かれた。ポツダム会談に参加したアメリカの大統領とソ連の最高指導者の組み合わせとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、**解答欄 12** にマークしなさい。

- ①アイゼンハワー — スターリン
- ②アイゼンハワー — フルシチョフ
- ③トルーマン — スターリン
- ④トルーマン — フルシチョフ
- ⑤フランクリン=ローズヴェルト — スターリン
- ⑥フランクリン=ローズヴェルト — フルシチョフ

[設問13] 下線部(13)に関連して、2010年代にはアラブ諸国で民主化運動が広がり、後に「アラブの春」と呼ばれるようになった。この運動の発端となった反政府デモが最初に起こった国はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄 13** にマークしなさい。

- ①エジプト ②リビア ③チュニジア ④シリア ⑤イラク

[設問14] 下線部(14)に関連して、東南アジアでは、19世紀以降、西洋諸国が港市の領域をこえた本格的な植民地化を進めた。この動きについての記述として **誤っているもの**はどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄 14** にマークしなさい。

- ①オランダは、ジャワ島で政府栽培制度（強制裁培制度）を始めた。
- ②フランスは、ビルマと保護国カンボジアを併せてフランス領インドシナ連邦を形成した。
- ③イギリスは、マレー半島の一部においてマレー連合州を成立させた。
- ④スペインは、フィリピンにおける従来の閉鎖的な植民地政策を転換し、マニラを各国に開港した。

〔設問15〕 下線部(15)に関連して、冷戦下で結成された西側の軍事同盟または安全保障組織として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **15** にマークしなさい。

- ①ANZUS ②GATT ③METO ④OAS ⑤SEATO

〔設問16〕 下線部(16)に関連して、イギリスは1973年に欧州共同体（EC）への加盟を実現した。イギリスと同時にECに加盟した国はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **16** にマークしなさい。

- ①デンマーク ②ギリシャ ③スペイン ④オーストリア
⑤スウェーデン

〔設問17〕 下線部(17)に関連して、19世紀のイタリア半島についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **17** にマークしなさい。

- ①1849年に、ローマ共和国が成立した。
②ヴィットーリオ=エマヌエーレ 2世を王とするイタリア王国が1861年に成立した。
③1870年以降も、南チロルなどがオーストリア支配下に残った。
④サルデーニャ王国の首相ガリバルディは、1859年にオーストリアと開戦した。

〔設問18〕 下線部(18)に関連して、この国を含む地域はフランドルと呼ばれていた。14世紀から16世紀にかけて、フランドルやイタリアではルネサンスが開花した。ルネサンス期の絵画について、画家とその作品の組み合わせとして誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **18** にマークしなさい。

- | | |
|---------------|------------------|
| ①ファン=アイク | — 「アルノルフィニ夫妻の肖像」 |
| ②ブリュゲル | — 「農民の踊り」 |
| ③ボッティチェリ | — 「ヴィーナスの誕生」 |
| ④レオナルド=ダ=ヴィンチ | — 「モナリザ」 |
| ⑤ラファエロ | — 「最後の審判」 |

〔設問19〕 下線部(19)に関連して、1960年代のアジアについての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **19** にマークしなさい。

- ①韓国では、民主化運動によって李承晩政権が倒された。
- ②フィリピンでは、マルコス大統領が開発独裁体制を敷いた。
- ③シンガポールでは、リー=クアンユー首相が経済成長を推進した。
- ④インドネシアでは、九・三〇事件を機に、スハルト大統領が失脚した。

〔設問20〕 下線部(20)に関連して、EUで共通通貨ユーロが決済通貨として導入された西暦年はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **20** にマークしなさい。

- ①1993年 ②1995年 ③1997年 ④1999年 ⑤2005年

II 以下の日欧交流史に関する文章を読んで、〔設問21〕～〔設問35〕に答えなさい。解答は解答欄 **21** ～ **35** にマークしなさい。

日本とヨーロッパの交流がはじまり、活発となる時期はいつごろおとずれたのだろうか。これについては、16世紀、フランシスコ=ザビエルらイエズス会の宣教師たちによる日本での布教活動をひとつのきっかけとすることができそうである。そこで以下、ふたりの「ルイス」、すなわちともに日本へ渡り、イエズス会の宣教師として、九州を中心に数々の足跡を残したルイス=デ=アルメイダとルイス=フロイスというふたりの人物を取りあげ、かれらをとおして日欧交流史の一端をのぞいてみることにしよう。

そもそも、アルメイダやフロイスの活動の基盤となった「イエズス会」とは、どのような組織なのだろうか。その成り立ちをひもとくと、16世紀に本格的となった、ヨーロッパ全土を覆わんとする激しい信仰と教会制度上の大変革へとたどり着く。やがてプロテスタントと呼ばれることになる、この新たな動きを受け、カトリックの側でも、1545～63年にかけてカトリック公会議を開催するなど、さまざまな改革が行なわれていった。イグナティウス=デ=ロヨラが、ザビエルら、パリ大学で共に学ぶ同志とともに創立したとされる修道会もまた、そうしたいわゆる「対抗宗教改革」のひとつととらえることができる。公会議に先立つ1540年、ローマ教皇パウルス3世によって「イエズス会」として正式な裁可を与えられると、かれらはいよいよ活動をさかんにしていった。日本を含むアジア地域や、アメリカ大陸などさまざまな地において行なわれた熱心な布教は、かれらの活動の中心であった。

さて、では、ここで最初に取り上げる「ルイス」、すなわちルイス=デ=アルメイダとはどのような人物なのだろうか。興味深いことに、かれは当初からイエズス会のメンバーとして日本に渡ったわけではない。1525年、ポルトガルの都リスボンで生まれたアルメイダはいわゆる「コンベルソ」、すなわちポルトガルではより一般的に「マラーノ」と呼ばれることの多かった、ユダヤ教から改宗したキリスト教徒であったと伝わる。ユダヤの人々は、ローマ帝国の支配下にあった132年、2度目の大規模な反乱を起こしたが鎮圧され、故地を追われたのちは離

散して居住することとなった。ヨーロッパへ渡ったかれらはさらに、十字軍派遣により強まったアルプス以北での迫害や排斥を避け、南部への移動を余儀なくされていく。一方、南部のイベリア半島では、8世紀にムスリムの王朝が支配を確立⁽²⁵⁾して以来、およそ800年にもわたる「国土回復運動（レコンキスタ）」が続けられていた。そのスペインで、1492年に「ユダヤ人追放令」が出され、さらに異端審問まで開始されるようになると、追われた人々がまず向かった先は隣国ポルトガルであった。従来、かれらの経済力を重視したポルトガルでは、ユダヤ人への態度も比較的寛容であったらしい。しかし、国王 26 以降、徐々に排斥の動きは厳しさを増していき、上記のとおり、域内のユダヤ教徒はすべて改宗を余儀なくされるに至った。ここに多くの「コンベルソ」が生まれ出されたわけである。アルメイダの一族もまたそうしたユダヤの人々であったと推察される。しかしながら、生家は相当に裕福であり、子供に十分な教育を与えることができたようだ。ルイス自身、医学⁽²⁷⁾を学び、1546年にはリスボンで医師の資格を得ている。

だが、そんなかれが選んだのは、むしろ貿易商人として身をたてる道であった。キリスト教に改宗後もなおユダヤの伝統を残しているとの偏見にさらされる「コンベルソ」として、あるいは生きづらさを感じていたためかもしれない。実際、ポルトガルから海外へ渡り、活躍した人々のなかには、少なくない数の「コンベルソ」が含まれていたと言う。いずれにせよ、若き日のアルメイダは大いなる野心を胸に抱き、まずはポルトガルのアジア進出の拠点であったインドの 28 へと向かった。さらにマラッカ（ムラカ）⁽²⁹⁾に渡り、日本を含むアジア貿易に手広く従事すると、商才に恵まれたアルメイダはまたたく間に多くの富を築くことに成功した。ところが1555年のある日、船団が大きな嵐に逢い、幸い自身の船は難を逃れたものの、自然の脅威をまざまざと見せつけられることとなる。この経験からアルメイダは、同じ年のうちに貿易で得た莫大な財産のすべてをイエズス会へと寄進し、みずからも入会を認められて宣教師となった。その後のアルメイダは九州とくに鹿児島から長崎を中心に、きわめて熱心かつ精力的に布教・伝道し、また医師としての経験を生かした病院建設なども行なっている。そうした成果は次々とイエズス会の本部へ伝えられたが、アルメイダにかぎらず、当時、アジアその他さまざまな地域へ赴いた宣教師たちはみな書簡や報告書

をひんばんに書き送った。その際、みずからの母国語、多くはポルトガル語やスペイン語⁽³⁰⁾によって執筆したが、ひとたび文書がヨーロッパへ伝わると、ドイツ語やフランス語、さらにはイタリア語、あるいはローマへの報告書の場合にはラテン語⁽³¹⁾へといったように、読み手への配慮や用途・目的に応じ、さまざまな言語へと再翻訳されていった。加えて、早くも16世紀の中頃には、そうして集められた文書のうち、とくに重要と判断されたものは、例えば『書簡集』などのかたちで出版されることもあったと言う。こうしたさかんな印刷・出版活動を促した背景には何より、広く海外へ活動を展開したイエズス会と宣教師が、活動の助けとなる各地の最新情報を強く欲したことが挙げられよう。加えて、出版需要の要因をさらに探るならば、大航海時代⁽³²⁾の存在を指摘することができるかもしれない。当然ながら、情報には正確さが要求された。

そこにイエズス会において主導的な役割を果たした人物が登場する。1579年に東インド管区巡察士として来日したヴァリニャーノである。かれは従来の報告書がいかに真実からかけ離れたものであったのかを知るや一大改革を実行し、年報制度を確立していった。併せて、報告などの発信にあたっては必ず複製を作成するよう義務づけた。船が難破する事態をあらかじめ想定していたからである。書簡や報告書など大事な文書が海難その他で失われるリスクを避けるため、すでにヴァリニャーノ以前から、2～3通の複製を製作し、それぞれ別の船とルートで送ることを常としたが、いまや制度として執筆者あるいは報告者本人の「手」による原稿のほかに、数人の筆記者の「手」になる複数の写しが存在することとなった。いずれが無事にヨーロッパへ到達し、記録されるかは船の状況次第である。運よく作成文書のすべてが残ったとして、内容の一致しないものもしばしば見られる。いずれかの段階で情報が加えられ、あるいは都合の悪い記述は削除されたと思われる。従来の修道院⁽³³⁾を中心とする写本にかわり、折しも活版による印刷術の大きな進展が見られたこの時代、ヨーロッパへ無事たどり着いた書簡や報告書は、先のとおり高い関心を呼び、多くの版が重ねられることとなった。

他方で、こうした書簡や報告書のたぐいとは別に、日本の歴史そのものに興味を抱き、書き残した人物がいる。もうひとりの「ルイス」、すなわちルイス=フロイスである。フロイスもまた、アルメイダと同じポルトガルのリスボンにおい

て、1532年に誕生している。少年時代は王室秘書庁で働くなど、やはり恵まれた家庭環境で育ったようだ。フロイスはしかし、早くも16歳のとき、1548年にはイエズス会に入会を果たしている。同じ年のうちにアジアへ出発すると、日本への渡航を強く希望したが、こちらはなかなかかなえられなかった。けれども、その間フロイスは日本発の報告書の整理などにかかわって過ごし、多くの情報に触れることができた。1563年、ようやく待望の日本へ到着すると、難解な日本語の訓練を積み重ね、やがて来日したヴァリニャーノに同行して、通訳としてもまた活躍することになる。そのフロイスに命じられた最大の仕事が日本史の編纂であった。だが、かれの代表的著作とされる『日本史』はその後きわめて数奇な運命をたどる。まずフロイスが心血を注いだ作品は、あろうことか「詳しすぎる」との理由によって、そのままヨーロッパに送ることを認められなかった。加えて、イエズス会とキリスト教布教をめぐる激しい混乱のなか、原稿の行方はようとして知れなくなってしまう。のちに判明したところによると、フロイスの原稿はいったん 34 におけるイエズス会の拠点であった聖パウロ学院教会へと移され、ここで長い眠りについたようだ。18世紀になってようやくその写しがとられると、原稿はふたたび放置され、しかも保管した書庫までが1835年には失火による火災で焼失した。こうしてフロイス本人の「手」になる原稿は完全に失われてしまったわけである。だが、写本が残ったことは、少なくとも幸いだったと言えるだろう。

最初に紹介したアルメイダは天草で、そしてフロイスは長崎でと、ともに日本において生涯を閉じている。後半に挙げたフロイスが最後に執筆したものは1595～96年の『日本年報』であり、内容は長崎におけるキリスト教徒への迫害すなわち26聖人の殉教の知らせであったと言う。アルメイダそしてフロイスというふたりの「ルイス」の死後には、イエズス会の宣教師たちの活動はますます困難となっていった。やがて江戸幕府が開かれると、外国人との交流は制限されていく。いわゆる「鎖国」である。だが、これより前のおよそ1世紀のあいだ、わたしたちは幕末の「開国」に大きく先行して、日欧におけるきわめてさかんな交流の歴史のあったことを、日本へ渡った多くの人々の「手」を通して知り、つぶさに感じ取ることができるのである。

[設問21] 下線部(21)に関連して、ヨーロッパ各地でさまざまな変革の動きが起こった。この動きについての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **21** にマークしなさい。

- ①宗教改革の先駆となったフスがコンスタンツ公会議において異端とされ処刑されたのちにも、ボヘミア（ベーメン）では、チェコ民族運動と結んだフス派の反乱が10年以上つづいた。
- ②都市を基盤とする宗教改革が進行したイタリアでは、ツヴィングリが活動の拠点としたミラノ市がプロテスタント宣言を行ない、長老制に基づく厳格な神権政治を実現した。
- ③「アダムが耕しイヴが紡いだ時、だれが貴族であったか」と説くミュンツァーに率いられ、ドイツ北部から始まった農民一揆は、教皇の権力を否定するまでに急進化した。
- ④ユグノー戦争中にヴァロワ家が断絶したフランスでは、アンリ4世が新たにブルボン朝を開き、みずからプロテスタントへ改宗する「ナントの王令」を発して国内をおさめた。

[設問22] 下線部(22)に関連して、教皇の至上権やカトリック教義の確認などを行なったこの公会議の開催地はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **22** にマークしなさい。

- ①アウクスブルク ②ヴィッテンベルク ③ヴォルムス
- ④トリエント ⑤ローマ

[設問23] 下線部(23)に関連して、この大学に範をとって、12世紀に設立された、神学で知られる大学の所在地はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **23** にマークしなさい。

- ①オクスフォード ②ナポリ ③プラハ ④ベルリン
- ⑤ボローニャ

[設問24] 下線部(24)に関連して、ポルトガルについての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** **24** にマークしなさい。

- ①1143年に、ナスル朝から独立して誕生した。
- ②1580年に、スペイン王カルロス1世によって併合された。
- ③1822年には、植民地としていたエチオピアが独立した。
- ④1933年以降、サラザールのもとで独裁政治が行なわれた。

[設問25] 下線部(25)に関連して、イベリア半島に入り、711年に西ゴート王国を打ち倒したムスリムの王朝についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** **25** にマークしなさい。

- ①シリア総督であったムアーウィヤが、バグダードを首都としてこの王朝を建てた。
- ②クライシュ族出身者がカリフ位を世襲したこの王朝の時代を、正統カリフ時代と呼ぶ。
- ③この王朝の第5代カリフであるアブド=アルマリクは、行政の用語をアラビア語に統一した。
- ④この王朝の君主はみずからカリフと称して、チュニジアにおこったファティマ朝に対抗した。

[設問26] 空欄 **26** に入る、バルトロメウ=ディアスの喜望峰到達を援助するなど、海洋帝国としてのポルトガルの基礎をかたちづかった国王は誰か。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **26** にマークしなさい。

- ①エンリケ ②ジョアン2世 ③フアン=カルロス1世
- ④ラーマ5世 ⑤フェルナンド

[設問27] 下線部(27)に関連して、11世紀に『医学典範』を著わし、ヨーロッパの医学にも大きな影響を与えた人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **27** にマークしなさい。

- ①イブン=シーナー ②イブン=ハルドゥーン ③イブン=ルシュド
④ウマル=ハイヤーム ⑤ハールーン=アッラシード

[設問28] 空欄 **28** に入る、1510年にポルトガルが占領し、アジア進出の拠点とした港市の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **28** にマークしなさい。

- ①カリカット ②カルカッタ ③ゴア ④コロンボ ⑤マドラス

[設問29] 下線部(29)に関連して、この地とこの地を都とした王国に関する記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **29** にマークしなさい。

- ①ヴァスコ=ダ=ガマがこの地へ到達したことで、ポルトガルの進出が始まった。
②上座仏教国のアユタヤ朝に対抗しようと、国王はイスラームに改宗した。
③この地で起こったアンボイナ事件を機に、オランダの支配下へ入った。
④第一次世界大戦後のヴェルサイユ条約で、独立が認められた。

[設問30] 下線部(30)に関連して、スペイン文学を代表する『ドン=キホーテ』は1605年に前編が、1615年に後編が発表された。作品中で作者は、自身がある戦いにおいて負傷し、左手の自由を失ったと述べている。『ドン=キホーテ』の作者も参戦し、スペイン側が勝利をおさめた戦いはどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **30** にマークしなさい。

- ①オーストリア継承戦争 ②プレヴェザの海戦 ③スペイン継承戦争
④レパントの海戦 ⑤第1次ウィーン包囲

[設問31] 下線部(31)に関連して、古代から中世におけるラテン語・ラテン文学についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **31** にマークしなさい

- ①古代ローマの公用語であり、マルクス=アウレリウス=アントニヌス帝は『自省録』をラテン語で書いた。
- ②中世のラテン=カトリック圏における公用語であり、トマス=アキナスは『神の国』をラテン語で書いた。
- ③12世紀には、イスラーム圏で研究されていたアリストテレスなどギリシアの古典がラテン語へと翻訳された。
- ④ルネサンス期の人文主義者によって、ヘブライ語で書かれた『新約聖書』がはじめてラテン語に翻訳された。

[設問32] 下線部(32)に関連して、15世紀以降のヨーロッパでは、「大航海時代」と呼ばれる新たな海外進出が進んだ。この海外進出をうながした背景についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **32** にマークしなさい。

- ①マルコ=ポーロが著書『大旅行記』で述べた「黄金の国（ジパング）」のイメージが、東洋へのあこがれをかきたてた。
- ②アジア産の香辛料はヨーロッパ各地で重宝されたため、直接貿易を行なえば莫大な富が手に入ると期待された。
- ③羅針盤や海図、新型の帆船が実用化され、天文学や地理学の知識も広まって航海術が発達していた。
- ④遠方にあると信じられたキリスト教王プレスター=ジョンの国と連絡を取り、ムスリムを挟撃する構想が刺激となった。

[設問33] 下線部(33)に関連して、ヨーロッパの修道院および修道会についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **33** にマークしなさい。

- ① 6世紀、ベネディクトゥスがイタリアのモンテ-カシノに建てた修道院では、「人は信仰を通して神に救われる」として、修道士に対し労働が禁じられた。
- ② 8世紀、聖像禁止令をきっかけに東西の教会が互いに破門しあい分裂すると、イタリアのクリュニー修道院長が両者のとりなしを行なった。
- ③ 11世紀にフランスで誕生したシトー修道会は、開墾技術や労働観、未開地への志向をかわれて、開発のために森林の開墾を進める各地の領主に誘致された。
- ④ 15世紀にフランスで生まれたフランチェスコは裕福な織物商であったが、奔放な生活から改心して托鉢修道会をひらき、生涯清貧に徹した。

[設問34] 空欄 **34** には、1557年にポルトガルが居住権を認められた港市の名が入る。1887年からポルトガルが正式に領有し、1999年に中国へ返還されたこの港市はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **34** にマークしなさい。

- ①アチェ ②バタヴィア ③マカオ ④厦門 ⑤香港

〔設問35〕 下線部(35)に関連して、303年からローマ帝国では大規模なキリスト教徒に対する迫害が行なわれた。この大迫害を命じた皇帝についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **35** にマークしなさい。

- ①この皇帝の死後に生じた政治的混乱の時代は、軍人皇帝時代と呼ばれている。
- ②この皇帝は四帝分治制（テトラルキア）を導入すると、みずから東の正帝となった。
- ③この皇帝が発したギュルハネ勅令によって、国内のインフレーション状態が抑えられた。
- ④この皇帝が建設したアッピア街道によって、軍隊の迅速な移動が可能となった。

Ⅲ 以下の明に関する文章を読んで、〔設問36〕～〔設問50〕に答えなさい。解答は解答欄 **36** ～ **50** にマークしなさい。

貧農の家の四男として生まれた朱元璋は元末の反乱でしだいに頭角を現わし、やがて1368年には大都を占領して元の勢力を北方に追いやった。朱元璋は征服した地の大地主の土地を没収しこれを官田として農民に耕させ、兵士による掠奪や焼き打ちなどを固く禁じた。また、李善長・劉基のような知識人や儒学者を積極的に登用し、そのもとで儒教的な理念のもとに政治制度を整えた。また、彼自身も儒教的な素養を身につけることに努力したといわれている。それは、彼自身が皇帝となり中国の正統的な王朝の統治者として君臨するための「条件」として、こうした素養が必要だったからでもある。1368年の正月、朱元璋は現在の **37** にあたる都市で皇帝に即位して国号を明とした。彼以後、清代まで受け継がれることとなる一世一元の年号（元号）がならわしとなった。

朱元璋は、皇帝即位後に明の建国に功績のあった臣下の肅清を行なっている。代表的なものが胡惟庸とその一派とされた人々が謀反を企てているとして逮捕された事件である。この時に処刑された人々は1万数千人にも及んだという。この後中書省は廃止され六部は皇帝直属となった。

朱元璋には26人の息子がいたが、これらは西安や太原、北平などの要地に配置された。このうち北平に配置されたのが、後に永楽帝として即位する燕王朱棣である。

1398年、朱允炆が第2代皇帝の建文帝として帝位に就いた。建文帝もまた、方孝孺など著明な儒学者を登用して税制改革などを推進した。一方、建文帝は自らの権力をおびやかすと考えられた勢力の排除にも乗り出した。1399年、燕王が謀反を準備したとして逮捕の命令が出されると、燕王は挙兵した。いわゆる **41** である。1402年、燕王は建文帝の軍に勝利し、帝位に即き永楽という年号を定めた。

永楽帝の治世は、対外的な積極策で知られる。1409年にはシベリア東部にも軍を派遣し、ヌルカン都司という軍事指揮機構を設けた。モンゴルに対しては1410年の出兵を始めとして皇帝自らが5回もの遠征を行なった。

南方では鄭和の率いる船団による、いわゆる南海遠征がよく知られている。
1405年の第1回の航海では、占城、スマトラ、スリランカなどに至った。その後⁽⁴³⁾の航海では、ペルシア湾のホルムズ⁽⁴⁴⁾、アラビア半島のアデンやアフリカ東海岸のマリンディなどにも到達したという。

永楽帝の死後、明は対外関係に悩まされるようになる。モンゴルではオイラトが勢力を拡大し、1449年には [45] が明の皇帝を捕虜にした。こうした事態に対処するために明は多数の軍を北方に常駐したが、この軍隊に対する食糧の供給のために銀が大量に消費されるようになった。また、明の海禁政策により海上貿易が禁止されていたなかで、倭寇が隆盛を極めた。

商取引の決済手段の一つでもあった銀の流通量増大を支えたものは、海外からの銀の流入であった。また、世界的な貿易の発展とともに16世紀には多くの宣教師⁽⁴⁶⁾も中国を訪れるようになった。銀流通の拡大は明の税制にも影響を及ぼした。⁽⁴⁷⁾従来は田賦（土地税）と人丁に課す徭役など多様な税が徴収されていたが、明の後期より田賦と徭役を銀納とする一条鞭法が施行されるようになった。

農村では「湖広熟すれば天下足る」の言葉に象徴されるように、長江下流域の水田開発に引き続き長江中流域の開発が進行し、棉や桑の栽培など商業的な農業も進展した。それは都市や農村における手工業の展開や、都市における文化や科学技術の発展をもたらした。これを背景に、徐光啓の編纂による [48 a] ，宋応星が著わした [48 b] ，李時珍の著作 [48 c] など、実学についての書籍も出版された。

他方、こうした変化のなかでしだいに諸物価は上昇し、貧富の差は拡大していった。農村では窮乏する人々が増加するとともに佃戸の地主に対する運動が高まっていった。1448年には福建省を中心に送租（地主の家まで租米を運び込むこと）に反発した佃戸が蜂起した。いわゆる鄧茂七の乱である。地主はこれに対抗して官憲と結び佃戸らを捕らえようとした。農民の反発は強まり、蜂起した人々の数は数十万に達したといわれる。翌年の鄧茂七の戦死により反乱は終息に向かうが、抗租運動と呼ばれる小作料の不払い運動は16世紀にさらに活発化していった。

地域間の商品流通を担った商人たちは、福建などを出身地とする集団であっ

た。徽州商人（新安商人）や山西商人は塩の販売に携わり勢力を拡大した。彼らは血縁や地縁を基礎としてネットワークを形成し、生糸や陶磁器⁽⁴⁹⁾を扱うとともに金融業も営んだ。

福建の商人のなかで大きな力を持つようになった **50** は貿易で蓄財し、明の武官ともなった。彼の息子は、明の遺臣として清への抵抗を続けた「国姓爺」として知られる。

16世紀に入ると北元が勢力を拡大し、海域では後期倭寇とよばれる海賊行為も活発になった。こうした社会変動への対処を担ったのが、16世紀後半に宰相となった張居正であった。張居正の改革は一定の効果を挙げる一方、改革をめぐる党争が激化し各地域では反乱が頻発した。1644年、反乱により北京を占領された明は滅亡し、清による統治を迎えることとなる。

〔設問36〕 下線部(36)に関連して、この反乱の名称はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄 36** にマークしなさい。

- ①紅巾の乱 ②三藩の乱 ③赤眉の乱 ④黄巢の乱
⑤呉楚七国の乱

〔設問37〕 空欄 **37** に入る語句はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄 37** にマークしなさい。

- ①長安 ②臨安 ③南京 ④洛陽 ⑤平城

〔設問38〕 下線部(38)に関連して、清についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄 38** にマークしなさい。

- ①太祖は女真を統一し、1616年に国号を清と定め皇帝に即位した。
②康熙帝の時代に清はロシアとネルチンスク条約を結んだ。
③乾隆帝はヨーロッパ船の来航を広州1港に制限した。
④雍正帝はキリスト教の布教を全面的に禁止した。

〔設問39〕 下線部(39)に関連して、中国では明以降一人の皇帝につき一つの年号を用いる制度が取られたが、朱元璋の時代の年号はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **39** にマークしなさい。

- ①光緒 ②洪武 ③万曆 ④崇禎 ⑤順治

〔設問40〕 下線部(40)に関連して、中書省を始めとした中央官制は、唐の時代に整備された。唐の中央官制の記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **40** にマークしなさい。

- ①戸部は国家儀礼を担当した。
②中書省には人事を担当する吏部など六部が置かれた。
③尚書省は詔勅の起草を担当した。
④門下省は詔勅の審議を行なった。

〔設問41〕 空欄 **41** に入る語句はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **41** にマークしなさい。

- ①甲申政変 ②土木の変 ③靖難の役 ④西山の乱 ⑤黄巾の乱

〔設問42〕 下線部(42)に関連して、永楽帝についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **42** にマークしなさい。

- ①唐の律・令にならって明律・明令を制定した。
②北京に遷都した。
③『四書大全』などの経典注釈書の編纂をすすめた。
④皇帝を補佐する内閣大学士を重要政務に参加させた。

[設問43] 下線部(43)に関連して、1405年にはティムールが生涯を閉じている。ティムールについての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **43** にマークしなさい。

- ①ティムールはアンカラでオスマン朝のセリム1世の軍を破った。
- ②ティムールは西チャガタイ=ハン国の軍人として頭角を現しイラン高原を征服した。
- ③ティムールはサマルカンドに天文台を建築した。
- ④ティムールが率いた軍勢はブワイフ朝軍を破ってバグダードに入った。

[設問44] 下線部(44)に関連して、ホルムズは1515年以後ポルトガルが占領したが、1622年にアッバース1世がこれを奪取した。アッバース1世についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **44** にマークしなさい。

- ①サファヴィー朝を創始した。
- ②チャルディラーンの戦いでオスマン帝国軍に敗れた。
- ③スレイマン1世にイラク地方を奪われた。
- ④「王の広場」を中心とするイスファハーンを造営した。

[設問45] 空欄 **45** に入る人名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **45** にマークしなさい。

- ①フレグ ②アルタン=ハーン ③ホンタイジ ④オゴタイ
- ⑤エセン=ハーン

[設問46] 下線部(46)に関連して、16世紀に起こった出来事はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **46** にマークしなさい。

- ①ユトレヒト条約の締結 ②ビザンツ帝国の滅亡 ③ドイツ農民戦争
- ④フス戦争 ⑤ルイ14世の即位

[設問47] 下線部(47)に関連して、宣教師についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄 47** にマークしなさい。

- ①フェルピーストは地球球体説に基づいた『皇輿全覧図』を作成した。
- ②ブーヴェは康熙帝の命で『坤輿万国全図』を作成した。
- ③カスティリオーネはバロックと中国様式を融合した円明園の設計に加わった。
- ④マテオ=リッチは徐光啓とともに『崇禎暦書』を作った。

[設問48] 空欄 **48 a** , **48 b** , **48 c** に入る語句の組み合わせとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、**解答欄 48** にマークしなさい。

- ① a 『農政全書』 b 『天工開物』 c 『本草綱目』
- ② a 『農政全書』 b 『本草綱目』 c 『天工開物』
- ③ a 『本草綱目』 b 『農政全書』 c 『天工開物』
- ④ a 『本草綱目』 b 『天工開物』 c 『農政全書』
- ⑤ a 『天工開物』 b 『農政全書』 c 『本草綱目』
- ⑥ a 『天工開物』 b 『本草綱目』 c 『農政全書』

[設問49] 下線部(49)に関連して、陶磁器の生産地として知られる景德鎮がある省はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄 49** にマークしなさい。

- ①浙江省 ②江西省 ③江蘇省 ④山東省 ⑤福建省

[設問50] 空欄 **50** に入る人名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄 50** にマークしなさい。

- ①鄭成功 ②鄭芝竜 ③李自成 ④李世民 ⑤李成桂